

ネットニュースの社会学

—どう作られ、どう消費されるか—

Sociology of Online News: The Production and Consumption of Online News

日時: 2015年6月19日(金) 14:40~16:10

場所: 明治大学駿河台キャンパス
リバティタワー16階1166教室

言語: 英語(日本語逐次通訳あり)

※予約不要・聴講無料

講師: ラース・ウィルナット博士 米国インディアナ大学教授

Lars Willnat, Ph.D. Professor of Journalism at Indiana University

専攻は世論研究、政治コミュニケーション論、国際コミュニケーション論。
米国だけでなくアジアにおける政治コミュニケーションの問題にも関心を寄せる。
共編著に *Social Media, Culture and Politics in Asia* (Peter Lang, 2014),
The Global Journalist in the 21st Century (Routledge, 2012), *Political Communication in Asia* (Routledge, 2009) などがある。



インターネットの発達・普及に伴い、私たちが日々、政治や社会に関するニュースを受け取る手段や方法は大きく変わりつつある。新聞・テレビ・雑誌といった伝統的なマスメディアに代わって、ネット経由でニュースを得ることが常態となり、情報源としてネットに依存する人々が増えている。こうした変化で日本に先行するのが米国である。

本講義では、米国のジャーナリストがネットニュース(オンラインニュース)をどのように制作しているかについてまず紹介する。ソーシャルメディア向けニュースの制作には、通常ニュースを制作する場合とは違った戦略が採用される。さらに、米国のソーシャルメディア利用者がニュースをどう消費(受容)しているかをデータで解説する。現状に対する価値判断はさておき、ネット、とくにソーシャルメディアはニュースの社会的流通において事実上無視できない存在となりつつある。これは米国だけでなく、世界各地で生じている現象である。

講義企画者: 竹下俊郎 明治大学政治経済学部教授

問い合わせ先: 明治大国際連携本部 Email: ico@mics.meiji.ac.jp